

令和元年度 主要農作物の生育状況

秋まき小麦	<p>昨年の播種期 9/21、出芽期 9/27 は平年より 3 日早かった。越冬前の生育は良好で茎数は平年の約 2 倍あった。冬期間の積雪が少なく一部凍上害の被害が発生した。起生期は 3/19 で平年より 19 日早く、茎数が多い状態で推移した。幼穂形成期 4/27 及び出穂期 6/1 は平年より 6 日早かった。開花期の天候は良好で、その後 6 月中旬から 7 月下旬まで日照時間は少なかったが、温暖な天候が続き登熟は順調に推移した。成熟期 7/18 は平年より 5 日早く、収穫開始も 7/24 で平年よりやや早かった。収穫前半は降雨日もあったが、収穫後半は高温晴天が続き収穫は順調に終了した。千粒重、1 穂粒数は平年を上回り、歩留りも非常に高く、製品収量は平年より多かった。タンパク含量は基準よりやや高かった。</p>
ばれいしょ	<p>植付期 4/23 (早 7 日)、植付終 4/30 (早 10) は平年より早く、萌芽期 5/20 (早 5 日)、着蕾期 6/6 (早 4 日) も早かった。着蕾期後から 7 月中旬まで温暖・日照不足のため生育は軟弱、徒長気味で茎長は平年よりやや高かった。生育は順調で、開花期 6/22 (早 4 日)、茎葉黄変期 8/5 (早 4 日) は早く、収穫作業は好天に恵まれ、収穫期 9/7 (早 5 日)、収穫終 9/27 (早 2 日) も早かった。上いも数はほぼ平年並で 1 個重が大きく、総収量・規格内収量は平年をやや上回った。でんぷん価は平年より低かった。</p>
豆類	<p>大豆・小豆の播種期は平年並～早く、菜豆類は平年よりやや遅かった。出芽期はほぼ平年並であった。6 月中旬から 7 月中旬の日照不足により生育は遅れ、開花期は大豆 7/22 (遅 3 日)・小豆 7/28 (遅 4 日)・金時 7/18 (遅 3 日)・手亡 7/25 (遅 3 日) と遅かった。大豆の生育はやや回復がみられ、成熟期が 9/24 で平年並であったが、その他の豆類は生育の回復が見られず、小豆 9/22 (遅 5 日)・金時 9/7 (遅 5 日)・手亡 9/20 (遅 5 日) と遅かった。収穫期は金時が 9/17 (±0 日)、大豆が 10/18 (±0 日) と順調であったが、小豆・手亡は葉落ちが進まず、収穫期は小豆 10/9 (遅 7 日)・手亡 9/28 (遅 3 日) と遅れた。莢数は大豆が多かったものの、他は少なかった。収量は各豆類とも平年をやや下回ったが、圃場差が大きかった。品質は大豆が平年よりやや劣り、その他の豆類は平年並以上であった。</p>
てん菜	<p>移植期 4/30 (早 1 日)、移植終 5/5 (早 4 日) と平年より早かった。活着はやや不良だったが、初期生育は順調であった。6 月中旬から 7 月中旬まで日照不足が続いたが、天候の影響はあまり見られず、生育は平年並に進んだ。7 月下旬以降の好天により根部肥大は順調に推移し、根周は平年より大きかった。収穫期 (10/30)、収穫終 (11/8) とほぼ平年並であった。褐斑病、根腐病、ヨトウガ等病害虫の発生は少なかった。根部の肥大が順調に進んだことから収量は平年より多かった。根中糖分はほぼ平年並であった。</p>
ながいも	<p>植え付け作業は、好天に恵まれ 5/10 (早 2 日) と早く始まり、終了は 5/28 (遅 1 日) と遅くなった。萌芽は 6/2 (早 5 日) と早まり、萌芽の揃いも良好だった。萌芽期以降低温寡照気味となり初期生育及び茎葉伸長はやや鈍くなったものの、7 月下旬以降挽回し茎葉の生育は旺盛となった。生育全般を通して茎葉の生育は旺盛となり、新しいもの伸長はおおむね順調に経過した。8 月以降、いもの肥大状況を調査したが、平年に比べやや遅れ気味の肥大となったものの最終的にはほぼ平年並みから平年を上回る結果となった。やや乾物率は低くなったものの、品質的にも大きな問題は見られなかった。</p>
牧草 (チモシー)	<p>萌芽期は 4/8 (早 7 日) であり、気温の上昇とともに生育は順調に推移し、1 番草の出穂期は 6/9 (早 3 日) となった。収穫作業は収穫始 6/14 (早 1 日) と早く開始され、その後は順調に進み収穫期は 6/24 (±0 日) だった。その後も順調に進み収穫終は 6/28 (早 8 日) となった。雨不足の影響もあり、10 a 当たりの 1 番草収量は 2,170kg (平年対比 73%) となった。 2 番草は平年並の気象が続き良い生育であった。収穫は天候に恵まれ収穫期 8/24 (早 4 日) 収穫終 9/2 (早 6 日) となった。こうしたことから、10 a 当たり収量は 1,702kg (平年対比 104%) であった。年間合計収量は 3,872kg と平年対比 84%となった。</p>
サイレージ用とうもろこし	<p>播種作業は順調に進み、播種期は 5/6 (早 6 日) であったものの 6 月、7 月はやや日照時間が少なく平年並みの気温だったことから雄穂抽出期 7/29 (遅 1 日)、絹糸抽出期 7/30 (±0 日) となった。その後は気温の変動が大きく高温傾向だったこともあり糊熟期 8/30 (早 7 日) 黄熟期 9/10 (早 6 日) であった。 収穫作業は収穫始 9/8 (早 4 日) と順調に始まり収穫期は 9/22 (早 4 日) だったが、10 月上旬の天候不順で作業が進まず収穫終は 10/11 (遅 1 日) であった。 生総重は、10 a 当たり 6,190kg (平年対比 103%)、TDN 収量 1,108kg (平年対比 104%) となった。乾物率は 25.4%と平年より 0.4%高かった。</p>

作況調査概要及び10a当たり収量

作物名		生育状況						10a当たり収量		
		調査 基準日	項目 (単位)	数量	項目 (単位)	数量	項目 (単位)	数量	本年 (kg)	平年 (kg)
秋まき小麦 (きたほなみ)		7/15	稈長 (cm)	73.0 (79.4)	穂数 (本/㎡)	817.2 (679.0)	穂長 (cm)	8.4 (8.9)	669	594
馬鈴しょ	食用 (メークイ)	8/15	茎長 (cm)	78.2 (64.6)	茎数 (本/株)	3.9 (3.8)	-	-	3,356	3,155
	加工用 (トヨ)	8/15	茎長 (cm)	71.3 (63.7)	茎数 (本/株)	2.8 (3.3)	-	-		
大豆		10/1	茎長 (cm)	68.1 (73.1)	葉数 (枚)	9.4 (9.7)	着莢数 (個/㎡)	608.1 (508.1)	272	280
小豆		9/15	茎長 (cm)	64.8 (64.1)	葉数 (枚)	10.7 (11.9)	着莢数 (個/㎡)	362.9 (417.7)	261	278
金時		9/1	茎長 (cm)	54.3 (50.2)	葉数 (枚)	4.0 (4.5)	着莢数 (個/㎡)	133.8 (140.4)	154	179
手亡		9/15	茎長 (cm)	51.4 (64.6)	葉数 (枚)	7.7 (8.2)	着莢数 (個/㎡)	153.0 (280.8)	194	212
てん菜		10/15	根周 (cm)	42.4 (39.7)	-	-	-	-	7,390 (16.7)	6,921 (16.7)
ながいも		10/15	いも長 (cm)	73.9 (75.0)	いも重 (g)	1,135.6 (1,158.2)	いも径 (cm)	7.2 (6.6)	3,866	3,490
牧草		1番草 6/15 2番草 8/15	1番草 草丈 (cm)	98.9 (107.5)	2番草 草丈 (cm)	98.9 (94.5)	-	-	3,872	4,654
サイレージ用 とうもろこし		9/1	稈長 (cm)	281.6 (286.4)	葉数 (枚)	17.8 (17.4)	-	-	6,190	5,983

注1) 生育状況：帯広市農業施策推進委員会調べ。下段()は平年値

注2) 10a当たり収量における平年値：帯広市調べ。てん菜下段()は糖分

注3) 10a当たり収量における本年値：帯広市推計値

注4) 10a当たり収量：秋まき小麦はきたほなみ、ゆめちからを、馬鈴薯は食用、加工用、澱粉用、種子用を含む。